

オルガノン要約 § 32～45

§ 32 レメディはどんな人間をも無条件に人為的な病気の状態にする（感染させる）ことができる。

§ 33 自然の病気＝ある条件下で感染する。レメディの病気＝無条件に感染する。
（注）しょう紅熱の「予防」として Bell.を用いて非常に効果があった。つまりレメディのエネルギーは人間の生命エネルギーを変化させる強い力を持っている。

§ 34 レメディが効果を発揮する条件

- A) 治癒すべき病気に限りなく類似していること。
- B) その病気よりも少し強いこと。

§ 35 類似していなければ治療できないことを説明するために事例を三例。
それらから以下の二点を考察する。

- A) 互いに類似していない自然の病気が同一の人間に併発した場合（3 パターン）。
- B) 不適切なアロパシー薬を使って治療したら何が起こるのか。

§ 36 A-1) 古い病気が強い場合＝新しい病気は駆逐される。

§ 37 B について

慢性病はいつまでも治らないし、むしろ悪化する。これはあまりにも日常的に目にしていることなので、説明の必要すらない。

§ 38 A-2) 新しい病気の方が強い場合＝古い病気の進行は遅くなり止る。ただし新しい病気が収束するか治癒されると古い病気は治癒していない状態でふたたび現れる。

§ 39 互いに類似していない病気は他方の病気を治癒することはできない。
従って、アロパシーの薬を長く使い続ければ、古い病気に新しい病的状態を加えてしまうだけである。

§ 40 A-3) 新しい病気が長期間身体に影響を及ぼした場合＝類似していない古い病気に加わり、一緒になって複雑な病気を形成する。

それらは自分の取り分になる器官をそれぞれ占拠する。患者は病気が重くなる。
しかし、類似していない二つの病気が並存した時、相手を互いに取り払って治療することはできない。

（注）二つの病気は融合するのではなく、並存することを確認した。それぞれに対するレメディを適切なきに入れ替えて使うと治癒できる。

§ 41 非常に頻繁に起きていることは、アロパシーによって不適切な薬を長期間使い続けたために、新しい病気が加わり複雑化した状態である。
二重の病気になり重症化し治癒できなくなり、死に至る場合もある。

§ 42 自然の病気が二つ、三つの自然の病気を同じ身体に同時に発生させることがある。これは類似していない病気の場合だけである。

§ 43 二つの類似した病気が同じ身体に発症した場合、結果はまったく異なる。
自然の経過において治癒はどのように起こるのか、人間によってどのように治療されるべきなのかを示していこう。

§ 44 二つの非常に類似した病気は、互いに寄せ付け合う。相手の進行を妨げることなく止めることもない。同様に、同じ身体で並存することなく、二重になって複雑化することもない。

§ 45 類似した病気は、必ずどんな場合でも互いに根絶しあう。要するにより強い病気はより弱い病気を駆逐する。
これは強い病気が、弱い病気が占拠しているのと同じ部位を要求するからだと推測される。